

博物館をより安心・安全に楽しんでいただくためのお願い

- \*新型コロナウイルス感染症の状況により予定が変更になる可能性もあります。予めご了承ください。
- \*ご参加の際はマスクの着用にご協力ください。当日体調に不安がある場合は参加をご遠慮ください。
- <イベントについて>
- \* **要申込** の表記がないイベントは申込不要です。
- \* **有料** (材料費や保険料など)の表記がないイベントは無料です。
- \* **要申込** のイベントは、原則として開催日の一ヶ月前から(一ヶ月前が休館日の場合は翌開館日)から電話もしくは受付カウンターで受け付けます。定員に達したら受付を終了します。イベントの日時や内容に変更が出た場合、その都度ホームページなどでお知らせします。

企画展「アンモナイト合戦」関連イベント

- 🎧 **講演会「新種！ワニ祖先の化石 特別講演」** 定員100名(先着順)  
5/4(水・祝)13:30~14:30 講堂 吉田純輝(当館学芸員)  
※昨年12月に発表された新種について初解説！ワニの化石と進化のはなし
- 🎧 **自然史講座「アンモナイトをさがそう」** **要申込** (定員15名) **有料** (100円)  
5/14(土)(雨天時は5月21日に延期) 8:30~17:00 いわき市アンモナイトセンター  
吉田純輝(当館学芸員)  
※ふくしまでアンモナイトを掘ろう！県博に集合してバスで移動します。
- 🎧 **自然史講座「化石標本をつくらう！」** **要申込** (前日の「アンモナイトをさがそう」参加者のみ)  
5/15(日)(前日の「アンモナイトをさがそう」が延期になった場合5月22日に延期)  
13:30~16:00 実習室 猪瀬弘瑛(当館学芸員)  
※うちに化石をかざろう！
- 🎧 **記念講演会「アンモナイトの不思議」** 定員100名(先着順)  
6/11(土)13:30~15:00 講堂 重田康成さん(国立科学博物館 地学研究部グループ長)  
※アンモナイトはなぜぐるぐる巻きに？
- 🎧 **見どころ解説会** 定員100名(先着順)  
4/23(土)、6/19(日) 各回13:30~14:00 講堂  
※トゲトゲ、うねうね 福島県からもみつかつるアンモたち

ミュージアムイベント

- 🎧 **昔話とふるさとの民謡〜唄と琴にのせて〜** 定員100名(先着順)  
6/18(土)13:30~15:00 講堂 玄如節唄影会のみなさん  
※今年は民謡に加えて琴と昔話の共演をお届けします

キッズ・ファミリー向けイベント

- 🎧 **博物館でも読み聞かせ** 定員15名(先着順)  
4/9(土)、5/14(土)、6/11(土)①11:00~11:30 ②14:00~14:30 体験学習室  
※ほっこりした時間をご家族で。
- 🎧 **こどもミニミニはくぶつかん**  
5/3(火・祝)、5/4(水・祝)、5/5(木・祝)10:30~15:30 体験学習室  
※博物館も子どもの日。お子さんが楽しめるワークショップなどをご用意してお待ちしています。

ポイント展ミニ解説会 各回とも11:00~11:30

- 🎧 4/24(日)「トークイベント 次世代へつなぐ刺し子の文化」 定員100名(先着順) 講堂  
南郷刺し子会のみなさん、内山大介(当館学芸員)
- 🎧 5/29(日)「松平容大の種痘」 定員100名(先着順) 講堂 阿部綾子(当館学芸員)

より深く知りたい！聴きたい！ 講座いろいろ

- 民俗ミニ映画会** 「記録映像で見るふくしまの暮らし」 各回定員100名(先着順) 講堂  
①4/17(日)10:30~ 「昭和のくらし博物館 昭和の家事」より食生活(1990~1992年)  
②5/15(日)10:30~ 「北屋形の神楽」(2013年)  
③6/19(日)10:30~ 「会津の御田植祭 普及啓蒙編」(2020年)  
※受け継がれてきた文化や芸能、今では失われてしまった生活、映像が見つめてきたふくしまの暮らしをご紹介します。
- 美術講座** 美術放談1「白をめぐって」 定員100名(先着順)  
4/29(金・祝)13:30~15:00 講堂 川延安直・塚本麻衣子・原惠理子(当館学芸員)  
※好評につき今年度も開催！美術放談シリーズの第1回目。  
「白」の意味や役割、魅力について考えます。
- 歴史講座** 「はじめてさんの古文書講座」 **要申込** (定員40名、3回とも参加いただける方)  
①5/21(土)、②5/28(土)、③6/4(土)各回13:30~15:30 講堂 高橋充(当館学芸員)  
※初心者向け、3回連続の講座です。江戸時代のくずし字の読み方、調べ方からはじめます。
- 美術講座** 「民藝作家と地方窯」 定員100名(先着順)  
5/22(日)13:30~15:00 講堂 川北裕子さん(バナソニック汐留美術館学芸員)  
※テーマ展「白磁の系譜」関連講座。  
会津本郷焼とも関連のある民藝運動やその作家たちについてお話しいただけます。
- 美術講座** 美術放談2「殿と姫の美術」 定員100名(先着順)  
6/24(金)13:30~15:00 講堂 川延安直・小林めぐみ・塚本麻衣子(当館学芸員)  
※秋の企画展「名君の大名文化」に向けて、殿と姫の美意識を探ります。

【4~6月のポイント展】

- \*ポイント展は、収蔵品を中心に、特別に公開する資料などを1点から紹介する小規模展です。ミニ解説会(本頁参照)にもお越しください。
- よみがえる南郷刺し子の世界** 4/5(火)~5/29(日)  
眠りからさめた会津南郷の刺し子づくりの技をご堪能ください。  
  
「南郷刺し子会」の皆さん(南会津町提供)  
※地域に伝わる刺し子文化の継承を目指して、平成22年から活動を続けています。
- 松枝岐の歌舞伎衣装** 4/15(金)~8/14(日)  
奥会津・松枝岐の人々が守り伝えてきた松枝岐歌舞伎。  
歴史ある衣装・小道具をご覧ください。
- 福島県近代医学教育150年記念
- 人物シリーズ①「松平容大の種痘」** 4/29(金・祝)~6/30(木)  
約150年前の種痘とは？赤子であった松平容大に行われた種痘の記録をご紹介します。

【三の丸からプロジェクトのご案内】

若松城三の丸跡にある当館をスタート地点に、会津地域を楽しんでいただくためのプロジェクト(なじよな2022特別号で詳しくご紹介しています)。春も色々計画中です！

- 雪国ものづくりマルシェ  
当館前庭にて5月7日(土)・8日(日)に開催予定です。  
  
昨年のマルシェの様子▶
- 三の丸からプロジェクト まちなか連携展示  
テーマ展「白磁の系譜〜会津本郷焼、一重孔希〜」にあわせ、会津若松市内の各施設(福西本店、末廣酒造嘉永蔵、竹藤、会津塗伝承館鈴善漆器店)でも会津本郷焼をテーマに連携展示を行います。歴史的な建物の見学とともに、会津本郷焼のある暮らしをぜひご覧ください。

2022年4月・5月・6月イベントカレンダー

日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土		
					1	2	1	2	3	4	5	6	7			1	2	3	4			
4	3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14	6	5	6	7	8	9	10	11
月	10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21	月	12	13	14	15	16	17	18
	17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28		19	20	21	22	23	24	25
	24	25	26	27	28	29	30	29	30	31						26	27	28	29	30		

- 休館日 ■ イベント開催日 ■
- 常設展観覧料 一般・大学生280円(20名様以上の団体は220円)
  - ※こどもの日5/5(木・祝)はすべての方の常設展観覧料が無料です。
  - 企画展観覧料「アンモナイト合戦」一般・大学生800円(20名様以上の団体は640円)
  - \*企画展チケットで常設展もご覧いただけます(企画展開催中有効)。
  - \*高校生以下は常設展・企画展ともに無料です。
  - 年間パスポート 2,000円
  - 購入日から一年間、当館主催の企画展や常設展が何度でもご覧いただけます。



- JR会津若松駅から約3km
- ・タクシーで約10分
- ・まちなか周遊バス「ハイカラさん」で約20分(鶴ヶ城三の丸下車すぐ)
- ・まちなか周遊バス「あかべえ」で約30分(鶴ヶ城三の丸下車すぐ)
- 🚻 **車椅子使用者用駐車場**  
・博物館西側「鶴ヶ城三の丸」バス停そば:2台  
・一般駐車場内博物館入り口側:3台  
※ご不明の点はお問合せください。

**福島県立博物館** Fukushima Museum

開館時間9:30~17:00(最終入館は16:30まで)  
お問い合わせ TEL0242-28-6000 FAX0242-28-5986  
〒965-0807 会津若松市城東町1-25  
HP https://general-museum.fcs.ed.jp e-mail general-museum@fcs.ed.jp

🐦 📘 📺

<編集後記>  
今号表紙は会津の木材や素材(漆塗、会津木綿)を活用して生まれ変わったレストランの一枚です。落ち着いた空間でゆっくり過ごせます。是非お立ち寄りください。(A)

Vol. 11 2022 4~6月号



Vol. 11 2022 4~6月号

福島県立博物館

なじよな Vol. 11 2022 4~6月号

福島県立博物館

Vol. 11 2022 4~6月号

新しくなった当館のレストラントランに

春の企画展

# アンモナイト合戦

## アンモナイトVS同時代の生き物たち

会期/4月23日(土)~6月26日(日)

会場/企画展示室  
【観覧料】一般・大学生:800円(20名以上の団体は640円)/高校生以下:無料  
\*企画展料金で常設展もご覧頂けます(会期中有効)  
【年間パスポート】2,000円  
\*ご購入日より1年間、当館の常設展・企画展(当館主催のみ有効)を何回でもご覧頂けます。

<展示構成>  
はじめてアンモナイトに触れる人から、福島県のアンモナイトを知りたい人、アンモナイトマニアまで、幅広く楽しめる構成です!

- 1.世界のアンモナイト**  
五大陸すべてのアンモナイトが見られます!
- 2.生き物としてのアンモナイト**  
復元模型などから当時を想像します。
- 3.福島県のアンモナイト**  
意外とすごいぞ!福島県のアンモナイト。いろいろ種類が見つかります。
- 4.日本のアンモナイト**  
日本列島各地のアンモナイトを見比べてみましょう。
- 5.アンモナイトと同時代の生き物たち**  
恐竜や巨大カキからプランクトンの化石まで。タコを食べた、首長竜のお腹の化石も!
- 6.アンモナイトと関わる人々**  
アンモナイト探しの道具や達人をご紹介します。アンモナイトに親しむヒントが見つかるかも?

- 変形** ゴードリセラス  
いわき市産 当館蔵
- 赤い輝き** ジェレキッテス  
アメリカ産 当館蔵
- 色模様の残っている** フニラス  
ドイツ産 国立科学博物館蔵
- トゲ付き** フロトクリセラス  
高松市産 当館蔵
- 色模様の残っている** ドイツ産 国立科学博物館蔵
- トゲ付き** フロトクリセラス  
高松市産 当館蔵
- 色模様の残っている** ドイツ産 国立科学博物館蔵
- トゲ付き** フロトクリセラス  
高松市産 当館蔵
- 色模様の残っている** ドイツ産 国立科学博物館蔵
- トゲ付き** フロトクリセラス  
高松市産 当館蔵
- 色模様の残っている** ドイツ産 国立科学博物館蔵
- トゲ付き** フロトクリセラス  
高松市産 当館蔵
- 色模様の残っている** ドイツ産 国立科学博物館蔵
- トゲ付き** フロトクリセラス  
高松市産 当館蔵
- 色模様の残っている** ドイツ産 国立科学博物館蔵
- トゲ付き** フロトクリセラス  
高松市産 当館蔵



担当学芸員 猪瀬弘瑛さん (発掘中!)

アンモナイトって何者?  
【現在の生き物の中では、なんとイカが一番近いんです!】  
今から4億年前、バクトリテス(オウムガイの子孫)から進化しました。バクトリテスからイカやタコの仲間も進化したので、イカやタコとは兄弟関係にあります。現在では、アンモナイトの触手は、10本だったと考えられています。

タイトルが「アンモナイト合戦」になったわけ  
【アンモナイトをただの「石」ではなく、生き物としても紹介したかったから!】  
三年以上、生き物として進化をたげたアンモナイト。1万種以上が知られています。その長い生存競争を擬人化してとらえて「合戦」という表現になりました。本展のキービジュアルイラストは、福島県から見つかったアンモナイトをモチーフに、福島県出身アーティストのスゲノマロさんに描いていただきました。



どんなアンモナイトが見られるの?  
【約600点のアンモナイトが大集合!さまざまな形や大きさが楽しめるヨ!】  
当館のアンモナイトコレクションをはじめ一堂に公開します。合わせて、国内各地からめずらしいアンモナイトが大集合!福島県で見つかったアンモナイトを中心に、日本や世界のアンモナイトが見られます。アンモナイトは、巻きの強さや向き、大きさなどに違いがあります。ソフトクリームみたいな螺旋状のアンモナイト、突起のある異常巻きのもの、伸び切ったもの、へアピン状のものなど...あなたの想像を超えるアンモナイトに、きっと出会えます。アンモナイトの赤ちゃん、オス・メスが分かるもの、色もようが残っているものなども展示。何かの理由でつぶれたまま化石になったかわいそうなアンモナイトも...。何が起きたのでしょうか。アンモナイトの気持ちになって、ご覧ください。

図録のおすすめポイントを教えて!  
図録は日本や福島県のアンモナイトを中心に、約200匹を実物大図版でご紹介! 大きさの分かる楽しい図録です。ぜひ見てみてくださいね。

### テーマ展 新種!ワニ祖先の化石



会場:収蔵資料展示室 ※常設展料金でご覧頂けます。  
1993年にアメリカで見つかった、ジュラ紀のワニ祖先の化石。その後群馬県立自然史博物館(富岡市)に保管されていた所、当館の吉田純博学芸員を含む調査チームにより、①新種であったこと、②当時から水辺で生活していたことが明らかになりました。研究成果は昨年12月に論文発表され(英王立協会誌オープン・サイエンスに掲載)、報道されました。恐竜やアンモナイトが繁栄していた時期の、ワニの祖先に関わる大発見。きっかけとなったこの化石にご注目ください!  
写真:アンフィコティルス・マイルシ(アメリカ/ジュラ紀/群馬県立自然史博物館蔵)  
復元イラスト制作:原部雅人

### ぎっすばじよば ~ズッキーのあのころの巻~

1. 早いものでズッキーと「ぎっすばじよば」に出演して3年目になるね。今さらだけど、ズッキーって昔どんな姿だったの?

2. 自分で言うのもなんだけど、昔の僕は大きすぎてかっこよかったんだよ! 恐竜やアンモナイトと一緒に暮らしていたんだ。

3. 恐竜やアンモナイトと一緒に!?それはすごい! タイムスリップして昔のズッキーの時代に行ってみない!

4. よし!久しぶりにマッキーの忍術で行ってみよう!

5. うわあああ!

6. 今から約8000万年前にワープしたよ。あ!あれが若かり頃の僕だよ!

7. え!?あれがズッキー!? 超かっこいい! ズッキーって泳げたの!?

8. そうだよ。僕は海で生活していて「クビナガリュウ」の仲間だったんだ。海の中も見てみよう!

9. アンモナイトがいっぱいいる!

10. 僕の友達アンモナイト、「アンモさん」だよ。

11. ズッキー久しぶりだね。ズッキーやマッキーがいる時代では僕は絶滅して生きていないけど、実はいるよなアンモナイトがいたんだよ。二人ともちょっと待って!

12. こ...これもアンモナイト!? 思っていたアンモナイトと違う...

13. マッキーのイメージとは違うかもしれないけど、これもアンモナイトなんだ。

14. この頃は色々なアンモナイトと遊べて楽しかったな~

15. ねえ!見て!楽器みたい!

16. 美しいアンモナイトや、不思議な形のアンモナイト、色々な種類がいたんだ。そんなアンモナイトの世界を知ってもらえたらいいよ。マッキーのように「〇〇のようなアンモナイト」とイメージをくらませるのも楽しいね!

17. マッキー。僕の時代を楽しんだかい?

18. 春の企画展「アンモナイト合戦」では、アンモナイトやその時代に生きていた僕の仲間たちの化石が展示されるよ!ぜひ見に来てね!

### テーマ展 窯元や作家たちが白磁に込めた表現をご覧ください。

## 白磁の系譜~会津本郷焼、一重孔希~

会期:4月16日(土)~5月29日(日)  
会場:部門展示室 歴史・美術  
※常設展料金でご覧頂けます。



展示作品から特に選んだ2点を、担当学芸員の原恵理子さんに紹介してもらいました!

会津美里町本郷で江戸時代から焼かれてきた会津本郷焼。陶器と磁器のどちらの原料にも恵まれ、両方を作ってきた珍しい産地です。会津本郷での磁器の生産は19世紀から試みられ、幕末には白磁が完成しました。今回のテーマ展では会津本郷焼の白磁に注目し、磁器生産の歴史とあわせて、近代に活躍した窯元や現代の作家の作品をご紹介します。

【資料紹介①】  
きざん  
**遠藤岐山**  
この作品は明治時代に活躍した遠藤岐山の窯で焼かれた花瓶です。箱書によると明治32年(1899)の会津地方連合物産共進会に出品し金牌を受賞したものとされ、遠藤岐山の代表作の一つといえます。菊花文と渦文が、花瓶の曲面上に流れるように配され、ところどころ輪のようになってるのが特徴的です。とろりとした白磁の白に染付の青が鮮やかに映える作品ですね。

【資料紹介②】  
いちじゅう こうき  
**一重孔希**  
耶麻郡塩川町(現・喜多方市)に生まれ、同地に工房を構えて作陶をした磁器作家・一重孔希(1948-2021)の作品です。一重は本郷で活動していた磁器作家・瀬田一(1927-2022)に19歳の時に弟子入りました。瀬田は民藝運動の中心作家である富本憲吉や濱田庄司に学んだ人物で、一重もまた民藝運動の精神に通じ、造形性と実用性を兼ね備えた作品を数多く生み出しました。一重の作品には、この皿のように器面に線形で文様を描く手法で植物や動物を表したものが多くみられます。少し青みがかった白磁にほのかな陰影で浮かび上がる文様が魅力的です。

■関連イベント  
大正時代末柳宗悦が提唱し、現在も各地でさかんに関連展覧会が開催されるなど、依然として人々の心を掴んでやまない民藝。実は会津本郷焼も深い関わりがあります。  
5月22日(日)開催の美術講座「民藝作家と地方窯元」でも深くはる関係が語られます。近年まで、益子陶芸美術館の学芸員をされていた川北裕子さんに、民藝運動とその作家たちと、地方窯元との関わりについてお話しいただきます。

### けんぱく・中のひと

【学芸員】塚本麻衣子さん  
仏教美術専門の学芸員として、着任から7年目を迎えた塚本さん。2年目からは毎年テーマ展「祈りのふくしま」を企画し、地域調査の成果もご紹介してきました。今回は、最近のお仕事を取材しました!



Q:栃木県立博物館の学芸員・深沢麻亜沙さんと共同調査をされたとか。きっかけやねらいを教えてください。  
A: 深沢さんと大学の先輩・後輩関係で、学生時代も一緒によく調査に行きました。偶然隣の博物館で働くことになり縁を感じています。昨年、深沢さんが下野薬師寺から飛来したという伝承のある薬師如来像を調査するため南会津町に生まれ、私も一緒しました。栃木県と南会津地方は歴史的にも関係が深く、調査の成果を皆さんにもご紹介したいと考え、今年度は深沢さんに当館での講座をお願いしています(7月2日を予定)。

Q:今年度のテーマ展「祈りのふくしま6」の見どころは?  
A: 現在、当館では「三の丸からプロジェクト」が進行中です(詳しくはなじな2022特別号をご覧ください)。その一環で常設展部門展示室「歴史・美術」も生まれ変わり、会津の歴史や文化をご紹介するコーナーとなりました。「祈りのふくしま6」(会期:6月4日~7月10日)では、当館の収蔵品の中から選りすぐりの会津の仏教美術をご覧いただけます。古い歴史を持つ恵日寺(磐梯町)ゆかりの絵画や工芸品も紹介します。